

令和5年度総合教育会議 会議録（要旨）

- 開催日時 令和5年10月31日（火）午後2時00分～3時00分
- 開催場所 本庁舎2階会議室
- 出席者 藤原淳（市長）、加藤暢之（教育長）、槻館行男（教育委員）、阿部歩（教育委員）、佐々木千穂（教育委員）、荒谷直大（教育委員）
- 事務局職員 立花幸博（教育部長）、佐藤しのぶ（副部長兼教育企画課長）、坂本真（学力向上推進監）、佐藤功也（生涯学習課長）、柴田知二（文化財課長）、土屋美由紀（図書館長）、三浦めぐみ（給食センター所長）、泉山茂利樹（総合政策部長）、古舘晶（政策推進課長）、相馬剛（教育企画課主査兼教育企画係長）

1 開 会

（立花教育部長）

本日の進行を務めます、教育部長の立花でございます。

ただいまから、令和5年度二戸市総合教育会議を開会いたします。

なお、本日の会議終了時刻は3時00分ごろを予定しております。

本日の会議は、市長部局から、泉山総合政策部長と古舘政策推進課長が出席しております。教育委員会事務局からは、佐藤副部長兼教育企画課長、坂本学力向上推進監、佐藤生涯学習課長、柴田文化財課長、土屋図書館長、三浦学校給食センター所長が出席しております。また、教育企画課から相馬主査が同席しております。

それでは、次第に沿って進めてまいります。

はじめに、藤原市長から、あいさつをお願いいたします。

2 あいさつ

（藤原市長）

こんにちは。本日は大変お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。また、日頃より教育行政については、色々な面でご指導いただき厚くお礼申し上げます。この会議については、平成27年に教育委員会と行政が一緒になり教育行政を考えていく法理の改正があってから進められてきております。

先週末あたりは子供たちと触れ合う機会が多くあり、いいなあと感じております。木曜日にはKボールで二戸、一戸、九戸の5校の中学生が一緒になりながら全国大会に行くということで報告をいただきましたが、ジャイアンツの西舘さんを目指して皆さんも頑張ってくださいと伝えましたけれども、これから子供が少なくなっていく中で、地域の学校が一つになっていくという時代になってきたのだなとつくづく感じたところであります。

また、土曜日には福岡小学校の150周年ということで、子供の発表を見たのは何十年振りでもいいなあと感じました。日曜日には健康フェスティバルで就学前の子供たちが100人近くおいでになりまして、歯のコンクールやポスターの製作など様々な面で表彰されており

ましたし、今日は朝から浄法寺で漆の森の植樹祭が 250 名を超える方々が東京などからもいらっしやって、二戸はいいところだとおっしゃっていただいたところです。浄法寺小学校、中学校の生徒さんも 1,000 本くらい植えていただいたところで、そういった姿を見るにつけ、子供たちの声によって我々も元気づけられていると改めて感じた所であります。

今日はぜひ忌憚のないご意見をよろしくお願ひいたします。

(立花教育部長)

ありがとうございます。

続きまして、加藤教育長から、あいさつをお願ひいたします。

(加藤教育長)

本日は本当にお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。市長そして教育委員会が一堂に会して会議を行う唯一の場であるということでございます。教育行政の更なる充実を目指しまして二戸市の教育事業がますます良くなるように皆様方から忌憚のない意見をいただければありがたいなと思っております。わたくしにとっては貴重な 1 時間になると思っておりますので、どうぞ思っていることをお話しいただければと思います。よろしくお願ひします。

3 議 題

(立花教育部長)

それでは次に議題に移りたいと思います。

ここからは、藤原市長に議長をお願ひいたします。

(藤原市長)

それでは、しばらくの間議長を務めさせていただきます。

最初に、「今年度及び今後の主な教育事業等について」説明いただきます。

それでは説明をお願ひします。

(立花教育部長)

はじめに私から、今年度及び今後の教育事業等の概要について説明をいたします。

(中略)

以上で説明を終わります。

引き続き、各課長から事業の詳細について説明いたします。

(佐藤教育企画課長)

「1 学校教育の充実について」説明申し上げます。

(中略)

以上で説明を終わります。

(佐藤生涯学習課長)

「2 社会教育の充実について」、説明申し上げます。

(中略)

以上で説明を終わります。

(柴田文化財課長)

「3 文化財の保存の活用について」、説明申し上げます。

(中略)

以上で説明を終わります。

(藤原市長)

説明が終わりました。

それでは、教育委員のほうからご意見を伺いたいと思います。

それでは槻館委員お願いします。

(槻館教育委員)

学力向上については本当に大きな成果があがっているなど感じております。子供たちの視野を広げるだとか新聞の活用をすとか、図書に触れるとか学校の授業、直接的な学校の指導のほかの事業も大きく影響していると思います。これがこれからも続けばいいなと思いますし、各学校回ってみても授業での態度も落ち着いているように見えています。

学校不適応児童の数が、令和4年にぐっと上がってきて、児童数減少の割には少しずつ増えてきていて、その辺が問題だろうなと思っております。二戸市にとって子どもは大事ですから、そういったことに力を入れて色々な面で活動できるようになればと感じております。おそらく障害を抱えている子たちも大きく影響していると思います。ある程度市として、家庭相談員など家庭へ入れる立場の人を増やすことも一つの手かなと思います。学校で何とかできるのであれば、それはそれでいいのしょうけども、それも難しいように思います。

(社会教育の面では) 令和6年度の取組の中の図書館利用促進について、プレママ期の読み聞かせはすごく良いことだなとみています。九戸城も素晴らしく整備されて、あのような感じであれば行きたくくなりますよね。

(佐々木教育委員)

学力向上については、成果が出ているなと思ったところです。教育委員会といえば学校教育が中心で社会教育についてはあまり目に触れないというか、目立たないものなのですが、いざこうやって見てみると、学校教育と同じかそれ以上に生涯学習課のほうも重要だなと感じております。毎年話題にしてしまっていて大変申し訳ないのですが、歴史文化資料館、収蔵庫の問題です。効果的な活用という点では、今あるものだけではなくて他から借り入れてそれを見せる展示できるような場があれば他からのお客様を呼び込むこともできますし、数億円かけたせっかくの天台寺です。そして整備が進んでいる九戸城など足を

運んでいただける場になると思います。とは言ってもハコモノを建てるといったことがお金がかかることですし、昨年の会議の中で市長のほうから収蔵庫の移転については2億円かかるという話がありました。優先順位もありますし、相当困難かなと思っております。であれば、ハードにお金をかけるというよりは、いかに活かしていけるかというところを議論してそこに力を入れていっていただきたいと思います。こんなにやっているのに教育委員会の点検評価ではいつもC判定となっているのが非常に残念です。二戸市としては一生懸命やっていると思いますので引き続きお願いします。

(荒谷教育委員)

学力向上については他の委員からもありましたとおり、成果が上がっているなど感じています。また、学校不適応児童生徒の増加というところが、気になっているところです。具体的な対策といっても何か言えるわけではないのですが、一番は、行きたくても行けない子どもたちの話を聞くことがいいのかなと思います。

石切所小学校の体育館、プール、校舎も含め進めていただいているようでありがとうございます。部活動の地域移行に関してですが、スポーツ少年団と部活動の両方のくくりの中で活動している状態の部活動があり、その中でねじれ現象のようなものが出て、子どもたちが巻き込まれてしまっているのかなと感じていてはっきりとした方向性で進めばいいのかなと感じています。

(阿部教育委員)

学力向上に関しては、英語の学習のデジタル化に大変期待しているところであります。耳が若いうちに正しい発音を聞いていたかったなと自分自身感じているところです。先生方がデジタル教科書に対応する教え方を学ぶというところから始まると思いますので、大変だと思いますけど、今後の子どもたちの将来のために期待したいところだなと思います。

不適応児童の対応につきましても、普段障がいのある人たちに対応していますけども、家族全体をたくさんの人たちで支援しているという形になるケースが多いので、不適応児童だけが課題があるのではなく、その先の大人に何かがあってその大人にどうアプローチしていくのか所に関して、学校では限界があると思います。市の職員だけでも限界があると思いますので、社会福祉士であるとか、民間の事業所の相談員であるとか外部の力も借りて対応していければいいのかなと思っています。

部活動の地域移行に関してですが、子どもたちのスポーツであるとか文化活動であるとかを触れる機会を奪わないように大切にしていくためには、どの形がいいのかデリケートな問題で結論を出すのはとても大変だろうとは思いますが、みんなで知恵を出し合って子どものためというところを忘れずにいい方向にもっていければいいのかなと思います。

文化財の活用については、大変整理されていて素晴らしいと持っていますので、浄法寺は人を呼ぶためには素晴らしい商品がありますので、九戸城も何かアピールできるような商品や人が来るような工夫なんかもだんだんそろえていければいいなと思っております。

郷土芸能に関して、各団体とても良く頑張っていて素晴らしいなと思っています。県北地区他の市町村もそれぞれでがんばっているようですので、ぜひ県北地区全体で子供たちそし

て指導者の皆さんで発表する場とか交流する場とかがあってもいいのかなと思っています。郷土芸能にかかわっていることは郷土愛に繋がるのかなと、そういう子たちは戻ってきているのかなと体感では思っています。ですので、そういうものに触れる機会があってもいいのかなと思っています。

(加藤教育長)

不登校児童生徒のことについて多くお話をいただきました。文部科学省のほうでもこれについては急務ということでありました。県内市町村の教育長とも話をしましたけれども、どんどん増加する傾向にあると、新聞テレビでも全国的にも増えてきているところです。

文科省のほうでも今後アクションしたいという話もありますけども、昨今文科省のほうでは、これまでの根本的な部分をシフトチェンジしているところがありまして、これまでは学校復帰をゴールとしてきましたが、子どもたちの将来に向けての社会的な自立という部分に視点を移してきています。今学校に来ていない子どもたちのこれからの学びの保障をどうしていくかというところが求められています。そのため、個々に応じた多様な学びの保障をしていかなければならないというところが、市教委としてやっていかなければならない部分かなと思っています。具体的にはオンラインを活用して授業を視聴するとか、学習プリントを準備して家庭でやるとか、適応指導教室のほうに来るとか、もう一つはフリースクールというのもある。そういった様々、その子の実態に応じて今ある状況の中で学びをいかに保証していくのか、そしてそれが社会的な自立にどう活かされるのかという部分を大事にしていくのだということでした。

二戸市としてもその視点にたって進めていかなければいけないと思っていましたので、今全国的には適応指導教室という名称から教育支援センターという名称の変更がかなり進んできています。これについても事務局内では名称を検討していかなければならないと思っております。それから、教育相談員が2名おりますが、適応指導教室を本庁において進めてきましたけれども、もしかしたら、ここに限定するものではないのではないのかな、必要に応じて相談員が必要な場所に行く、例えば学校まで赴いていくというようなことがあってもいいのではないかと考えています。先日教育長との交流会がありましたけども、そういうふうにお考えの市町村がたくさんあって、実際に動いている市町村もあると聞いてまいりました。それを聞いてわたしのほうも検討して進めていったほうがいいのではないかと考えているところです。

(藤原市長)

ありがとうございました。皆様から意見を伺いまして、先ほどから学校不適応児童生徒への支援というところで、家庭相談員という話もありましたけど、原点は家庭訪問にあって話を聞きながら、進めていくものであって、教育とか福祉とか繋がっていくのではないかと感じた所であります。

高校再編、魅力化事業について皆様から意見が出てくるものと期待しておりました。工業高校には支援学校が設置される見通しであることと、知事が進めていた産業技術短期大学についてこれから、県北でどう受け止めていくかが課題となってくるものと思っております。

ます。これは、行政だけでなく、産業界や教育界など様々な分野で盛り上げていかなければならないと考えています。おそらく数年かけてのことになると思いますが、新幹線二戸駅の近くに整備されることで通いやすいなど、自分たちの都合ではなく集まってくる生徒とかの気持ちにたってモノを考えなければ人は集まってこないと考えています。どうすれば地元ヒトが残ってくれるのかそういったところを考えていかなければならないと感じております。

施設等についても、収蔵庫の改築など、自分も反省していますが、もっとスピード感をもってやらなければならないと。いつの時点で何を作ってどのようにもっていかなければならないのか、あの地域にある文化財は生きてこないと思っています。いずれ文化財を活かしながら交流とか観光に結び付けるなど自分たちが誇りを持てるように魅せていくというのが、地域の人が誇りを持てるような街になると思っています。今回ご意見等をいただいて活かしていきたいと思っています。

4 報告

(藤原市長)

次に「報告」の説明願います。

(立花教育部長)

(説明 略)

(藤原市長)

皆様からご意見等ありましたらどうぞ。

<「なし」の声あり>

(藤原市長)

報告について、異議なければこれでよろしいでしょうか。それではその他ですが、何か事務局ありますか。

(立花教育部長)

事務局からは特にございませぬ。

(藤原市長)

それでは皆様からどうぞ。

(槻館委員)

少人数の学校が3校ほどありますが、そろそろ統合を考える時期に入っているのではと思っています。授業においては、家庭教師のような対面で行っている授業もありました。2、3年後にはもっと減ってくると思いますので、そろそろ市の方針を出していったほう

がいいのかなど感じています。

(藤原市長)

このことは頭に置きながら、地域にとってはシビアな問題で、取り組み方を間違わないようにしていかなければならない。実際に子どもを持つ親御さんがどういうふうにしたいのかを考える必要があると思っています。

(藤原市長)

物価が高騰していて、給食費は検討しなければならないものと思っています。材料費が値上がりしている中で、それを上乘せするのか、市のほうで補填して質と量を維持するのかわいか。他からの話を聞くと、二戸市の給食は大変おいしいと聞こえてきます。ただ、これを維持していくにはそれなりに費用がかかっていくものであるのもので、そこが課題となっているところです。

(佐々木委員)

食材費について保護者が負担していると思うのですが、物価が上がっているのは誰でもわかっているので負担していただくほうがいいのではと思っています。給食費の無償化というのは個人的に違うと思っています。良い質のものを給食センターは頑張っていると思っています。

(藤原市長)

給食費の無償化とか医療費については、国で考えることであって、子ども家庭庁とかで国全部の問題としてやってくれればいいんですが、そのことと今の値上がりとは切り離して考えていかなければいけないと思っています。

事務局にお返しします。

6 閉 会

(立花教育部長)

ありがとうございました。

以上をもちまして令和5年度二戸市総合教育会議を閉会いたします。

委員の皆様、大変ありがとうございました。